

学習の継続を目的とした思考整理環境の構築

青木美紅

学習者は学習の過程として、情報を集め、集めた情報を読むことを繰り返し、それらから得た情報を想起して学習課題を導き出す。そして、再び情報を集める段階へ戻ることによって学習が継続していく。しかし一度情報に目を通していても関わらず、思い出すことができずに情報が見落とされることもある。これにより、学習課題を導き出すことができずに学習が停止することになる。そこで、本研究では見落としていた学習課題を導き出し学習の継続を促進することを目的とする。

手法として、学習の過程における「読む過程」と「想起する過程」を支援するシステムを構築する。「読む過程」と「想起する過程」においてキーワードリストを作成し、「読む過程」では目を通してあるが「想起する過程」では思い出せなかったキーワードの提示を行う。これによって見落としていた情報を確認することができ、「想起する過程」の不十分さを解消出来るのではないかと考えた。この手法を踏まえて、本研究では「えうれか」というシステムを構築した。

本システムの有効性を検証するため、被験者実験を行った。知識情報・図書館学類の3年生10名を対象とし、思い出せなかったキーワードを提示することで学習課題を導き出すことができたか、またそれによる後続の学習への影響があったのかを検証することを目的とした。実験の手順としては、まずシステムを用いた学習を1週間程度用いて行ってもらい、最後に事後アンケートに回答してもらった。

実験の結果、どの被験者も思い出せなかったキーワードのうち「今後の学習に活かそう」と判断したキーワードが継続して存在していることがわかった。また、半数の被験者から「今後の学習に活かそう」と判断されたキーワードが後続の学習のトピックや読んだ論文名等に影響を与える傾向が見られた。

以上の結果から、思い出せなかったキーワードを提示することで、見落としていた学習課題を導き出すことができたと考える。また後続の学習への影響が見られたことから、学習の継続を促進できる可能性も見いだせた。今後の課題としては、キーワードリストの編集・削除機能の追加や思い出せなかったキーワードの提示方法の再検討が挙げられる。

(指導教員 宇陀則彦)